



第3回目 川根留学制度



今回は、「川根留学制度」についてご紹介いたします。どの地域から何人入学しているのか、川根高校にどんな変化があるのかなどをご紹介します。

【そもそも川根留学制度って何??】

川根本町立中川根中学校と本川根中学校、島田市立川根中学校以外の中学校から川根高校へ入学する制度を言います。平成26年4月に第1期生2名が入学しました。

【川根留學生徒数の推移】

川根留学制度は、平成26年からスタートし、これまで多くの川根留學生が川根高校に入学しました。年数を重ねると川根留學生の入学者も増加し、現在、川根高校の約半分が川根留學生です。また、平成30年から県外生徒募集を開始しました。開始した初年の入学者は0名でしたが、平成31年は6名の入学者がいました。今年度の入学者選抜試験でも、県外生徒は3名志願しており、県外で「川根高校」という名前が知られつつあります。

川根高校の生徒数の推移

(各年4月現在)

	H26	H27	H28	H30	H31(R1)
川根留學生数	2	12	36	48	68
地元生徒数	141	128	116	101	71
全校生徒数	143	140	152	149	139

【川根留學生の出身地】

川根留學生はどこ地域から川根高校に入学しているのでしょうか。下記の表は、令和2年1月1日現在の川根留學生の地域別人数です。一番多い地域は、静岡市、次に島田市と続きます。表を見ると、県内中部地域から入学する生徒が多い傾向があります。

また、県外からは、埼玉県、東京都、神奈川県(2名)、山梨県、愛知県から合計6名が入学しており、静岡県近郊からの入学者が多い現状です。

(令和2年1月1日現在)

県内出身地	人数	県内出身地	人数
静岡市	18	浜松市	3
島田市	8	菊川市・磐田市	各2
藤枝市・掛川市・吉田町	各5	清水町・富士宮市 富士市・袋井市	各1
焼津市	4		
県外出身地	人数	県外出身地	人数
埼玉県・東京都 山梨県・愛知県	各1	神奈川県	2



【川根留學生の生活】

川根留學生は、寄宿施設（奥流・よすが苑・南麓寮）に入居している生徒が大半ですが、町内に下宿する生徒もいました。また、大井川鉄道等を利用して自宅から通学している生徒もいます。寄宿施設に入居する留學生は、生徒自身で洗濯や掃除などを行っており、自立した生活を心掛けています。寄宿施設では、町内業者が朝食と夕食の2食を毎日用意（年末年始のみお休み）しています。

川根留學生が所属する部活動で一番多いのは、野球部です。次にパソコン部、郷土芸能部、カヌー部と続きます。どの留學生も一生懸命、部活動に取り組んでいます。

【川根留學制度を立ち上げてからの変化】

川根留學制度を立ち上げてから6年が経過しました。様々な川根留學生が川根高校に入学しています。川根留學生は、とても積極的な生徒や個性的な生徒が多いと思います。そんな川根留學生が川根高校に入学し、積極的かつ個性的な生徒が溢れてきたように感じます。また、町内にも高校生の元気な声が聞こえ、活気があります。今以上に川根留學生が地域に飛び込み、より川根本町を盛り上げて欲しいです。



（地区防災訓練に参加する川根留學生）



（大学生とのディスカッションに参加する川根留學生）

【川根留學制度の課題と今後について】

現在、川根高校の在校生の割合は5：5（地元生徒数：川根留學生）です。しかし、令和2年度からは、川根留學生が多くなります。少子化で地元生徒が少ない現状ですが、地元生徒が川根高校を選んでくれるよう川根高校の魅力をより図る必要があります。また、川根留學生の増加に伴い、寄宿舎（寮）の運営費も増加しています。運営方法などの見直しが必要となります。

今後、川根留學生の入学者は、一定数あると思われませんが、川根高校卒業後、町外へ出る留學生が大半です。しかし、3年間を川根本町で生活することで何かしら得るものがあると思います。川根本町を「第2のふるさと」と思い、卒業後も、川根本町に気軽に来て欲しいと思います。そして、川根留學生の中から川根本町に移住、就職する生徒が1人でも多く出て欲しいとも思います。

川根留學生は1人1人違います。川根高校に進学した目的も違います。1人1人に寄り添って、川根高校に入学した目的を達成できるように町教育委員会も応援していきたいと思っています。

第4回目は、「若者交流センター奥流」を紹介予定です。令和2年5月更新予定です

【作成】

川根本町教育委員会教育総務課

TEL:0547-58-2555

FAX:0547-59-4025